ふりかえり

新海　博康

今年の1月22日名古屋出張中に、名鉄金山駅のホームで、新名古屋行きの名鉄電車を待っている最中に突然倒れ、救急車で名古屋市立大学病院に運ばれました。原因は不明で、私が意識をとりもどしたのは約3週間後（2月14日頃）でした。その間のことは、いまだにハッキリとはわかりません。

とにかく、東京にいる妻と娘たちが病院にかけつけ、ＩＣＵのベッドに横たわっている私の姿をみて、娘たちが

『おとうさん、おとうさん』

と泣き叫んだとのことです。

左の耳から出血、また嘔吐をした為、着ていたコート・スーツ・ワイシャツ・ネクタイ類が汚れ、ベッドサイドのビニール袋に入れてあり、本当に信じられない光景であったと、当時をふりかえり妻は私にいいました。その日から、私の看病を中心とした生活がはじまり、先の見えない不安な日々をおくることになりました。私が意識を取り戻した時、不安げな顔をしていた妻がそばにいたことを覚えています。

たおれた当初、主治医の先生からは『外傷性くも膜下出血・脳挫傷』と診断されました。妻と

看護師をしていた義姉が、私の頭部のＭＲＩの写真を主治医の先生から診せられ、
『脳に2箇所損傷をうけて、出血で白く写っているのが、はっきりわかった。』
と妻は言いました。その部分は、頭の前頭葉と左側の側頭葉の部分で、脳に損傷をうけ白い影となって写っていました。主治医から、
『言語や記憶をつかさどる機能に障害が残ります。』
『よく回復しても70から80％くらいと思ってください。』
『元の仕事に戻ることは、おそらくむずかしいでしょう。』
と言われ、かなりショックをうけた。と、涙ながら話しをしてくれました。
私自身、昨年の12月に、会社での定期健康診断（人間ドッグ）において、体の異常が見つからなかったので、健康について甘く考えていました。また、会社の業務においては、年度末の繁忙な時でもあり、たおれたことでいろいろな方々にご迷惑をおかけし本当にもうしわけなかったと思っています。
特に、たおれた当初から名古屋での入院期間中（4ヶ月間）、東京―名古屋間を往復して、看病をした妻の心労は、とりわけ想像を絶するものだったと思います。また、留守をまもってくれた2人の娘たちにも心からありがとうの気持ちで一杯です。
入院当初見舞いに来た時は、かわりはてた姿に言葉が出なかった義父が、2回目に来た時、病室にあった「看護ノート」にそのときの義父の気持ちを書いてくれました。それを読むとその時

の義父の気持ちがひしひしと伝わり本当に、ありがたく思います。

2月2日（金）

病室に入った瞬間、
精気ある博康君の眼を見て、
ずいぶん回復したと、
こころからうれしく思った。
ひとことふたこと会話をかわすなかで、
思ったより早い回復ぶりに、
今までの不安は
どこかにけしとんでしまった。
よかった。よかった。
これも家族、親族がひとつに結ばれた、
看護のたまものと思う。
医師・看護師の皆様に感謝。
病院の設備に感謝。
油断することなく、
今後の博康君の回復を、

心から祈ってやまない。
来てよかった。
当時、ベッドの横で毎日妻が寝泊まりをしてくれ、入院当初、満足にひとりで食べること、着替えをすること、歩くことどれひとつとっても満足にできず介助を必要とする状態であったので、本当に妻には感謝しています。入院当初より家族が書いてくれた「看護ノート」を読みかえすたびに、当時の事を思い返し涙が出てきます。特に、最後の点滴がはずれる時の、妻の言葉は、心に深く残っています。
最後の点滴がはずされ、
やっと夫は自由の身となり、
夫の第一声は、
『あー助かった。』でした。
点滴は、何回ももれたり、うでが腫れたりして
何度も、何度も、うちなおしをして
本当に大変でした。
23日間本当に頑張ったと思います。
これからはリハビリづけの毎日が待っています。
夫は頑張ってくれると信じています。

みんなが応援してくれているから
がんばってね。
心強いね。
その後、主治医から
『頭部に障害「高次脳機能障害」がのこった為に、今後リハビリを受けてください。』
と告げられ、くわしく高次脳機能障害、リハビリの内容についての説明をうけましたが、そのときはひとごとのようにその話しを聞いていました。
最近になってようやく、「高次脳機能障害」は個人差があり、特に遂行機能障害、記憶障害、注意障害は障害を受けた本人が少しでも改善していこうという気持ちで、障害を受け入れることが何よりも重要だと理解する事ができました。自分自身、あせらず、あわてず、あきらめず、〝ありのままの自分で前進していかなければいけない〟と障害を正直に受け入れようと思うようになり、自分自身の気持ちがすごくらくになったことを覚えています。
名古屋市立大学病院では「外傷性くも膜下出血・脳挫傷」の治療を行い、「高次脳機能障害」のリハビリのために名古屋市総合リハビリテーションセンター附属病院に、入院しました。市立大学病院からセンター附属病院へ入院するまでの数日間を東海市の自宅で、妻と過していた時、体がつらくて何もする気が湧かなく、ただボーとしている姿を妻が見て
『しっかりしてよ。』

と言われるたびに、ただ

『ごめん』

と俯いて力なく答えるのが、精一杯の状態でした。

また、センター附属病院入院時に担当医から、簡単な心理テストを受け、

『野菜10個を答えて下さい。』

と問われた時、考えたあげくキャベツ1個しか答えることができませんでした。あの頃のことを、担当医にたずねますと、

『当時の君の知能は、小学生以下だったね。』

と言われます。しかし、現在ではリハビリのおかげで、少しずつ記憶ももどってきて、以前みたいに、ボーとすることもなくなり、進んで自分のできることを見つけて、行うようになりそして、野菜を10個答えられるようになりました。

退院した当時、周囲の皆から「病気してかわってしまったな。」と言われないようにしたい。しかし、本を読破しようと思っても、なかなか思うようにできない状態が長く続き、「もう病気はなおった。」と思い込んでいた自分が非常に情けない気持ちで一杯でした。早く復帰し家族を楽にさせたいと思う気持ちの焦りから、「3月末には退院して会社にもどるのだ。」と自分勝手にスケジュールをたて、担当医、看護師をはじめ妻を困惑させたこともありました。

担当医から退院するにあたり、

『発症前と今では、病気したことで障害がこれからはあることを意識してください。』

『あなたには、「遂行機能障害」「記憶障害」「注意障害」並びに「多少失語症の傾向」があります。』と言われました。どれひとつとっても、私にとっていやな言葉です。そして、自動車の運転を自粛するようにいわれたときは、またショックでした。

名古屋市内の病院（名古屋市立大学病院・名古屋市総合リハビリテーションセンター附属病院）から、5月のゴールデンウイーク期間中に、東京の家に戻り、センター附属病院の担当医からの紹介で東京都心身障害者福祉センター及び東京都リハビリテーション病院に通院することとなりました。なにより、家族が一緒に生活ができることが、本当に嬉しかったです。

東京都リハビリテーション病院では、センター附属病院と同様、週一回の訓練（リハビリ：作業・言語・心理）と、月一回の診療を受けました。東京都心身障害者福祉センターについては、在住している江戸川区障害者就労支援センター経由で申請「評価依頼書」を行い、週三回福祉センターにて職業評価をうけることになりました。

理学療法のリハビリがなくなったことで、今まで一番不安に思っていた、歩行時のバランス感覚がもどってきたので、障害がなくなったと勘違いし、「会社への復帰が早くなった。」と思い込んで、また気の焦りが生じた事もありました。

福祉センターの担当者からは、

『通常、6ヶ月程かけて職業評価を行って、復職への準備を行います。』

と説明を受けたのに、当初から評価内容・利用期間等に不満をもち、担当者とぶつかり、妻をまじえて話合いを何度も繰り返しました。あらためて「高次脳機能障害」を一から自ら問い直し、福祉センターから渡されたテキスト『高次脳機能障害の方への就労支援』をＣＰＵ訓練時に入力を行い、自分自身が該当する障害内容をマーキングすることで、自分自身「高次脳機能障害」に対して本当に理解した第一歩だったと思います。毎日のリハビリ終了後、一日をふりかえる事からはじめた日記が、復職した今、メモリーノートを書く習慣へとつながっていると思います。

倒れたことによって、経済面も大きな問題でした。妻に苦労をかけたと思います。会社の人事部から、

『1月から3月までの間は、今まで通り会社から支給して、4月以降は健康保険組合から傷病手当金として支給致します。』

との連絡を受け、ほっと安心していました。

しかし、出張中に倒れたことから、労働災害の申請を行う事が4月になって急遽会社で決定したとの連絡があり、労働災害申請期間中は健康保険組合から一切金銭の支給がなくなりました。ただ、医療費・リハビリ費用については労働災害が正式に決定するまで、負担しなくてもよいとのことでした。しかし、経済的には、大変妻に苦労かけたと思います。そんな時、義理の両親並びに兄弟にご支援をいただきありがたく思っています。私自身、会社の業務では、建設労災を担当していましたので、労災決定にこんなに時間がかかると思ってもいませんでした。会社にお願

いをして、8月から傷病手当支給金相当額を仮払いを受けることとしました。

また、リハビリテーション病院内の医療福祉相談室には、復職の件・身体障害者手帳の件をはじめ病院・福祉センター・会社間のパイプ役になっていただき助かりました。

会社への復帰は、7月初め診断書を提出して、産業医と面接を行い、正式に復職スケジュールが動き出しました。当初は、軽減勤務からスタートという事を、リハビリテーション病院の主治医からお願いしていただき、復職に向けて、会社、病院、福祉センター、医療ソーシャルワーカー、就労支援センターとの話合いを一つ一つ乗り越えて、今日にたどり着いたと思います。

けっしてひとりではここまで来られませんでした。今日まで、名古屋市立大学病院・名古屋市総合リハビリテーションセンター附属病院・東京都心身障害者福祉センター・東京都リハビリテーション病院及び江戸川区障害者就労支援センターと、いろいろな機関にお世話になり、本当に心から感謝しています。

そして、今回の突然の発症は、私にゆっくり自分を見つめなおす時間をくださったのだと思い直し、〝ありのままの自分で前進していかなければいけない〟と教えてくれたと思えてなりません。

いま私は、10月よりリハビリ出勤が始まりました。約2ヶ月間の軽減勤務期間を利用して体調をととのえたいと思います。毎日、繰返しメモリーノートのメモを確認、見直し、確実に実行することで「高次脳機能障害」と正しくむきあい冷静、謙虚、頑張らずに、素直に、早め早めに行動をとることで、常にタイミングよく周囲の人とのコミュニケーションを大切にしていきたいと

思っています。そして何より、一番近くでいつもささえ励ましてくれた、妻、娘たちには、感謝の気持ちで一杯です。

ありがとう！そしてこれからもよろしくお願いするね。